

神無月 神代の昔、八百萬の神々が、出雲に

参集された事に由來する此の神無月、暑か

らず、寒からず、氣高い菊花と、如何にも

日本的な松茸の香り。時雨月、初霜月、小

春月の異名に呼ばれる秋濃かな十月。天候、

氣溫の快適に、興亞新建設への國民歩調も、益々堅調に進んで行く。

1939年

10月の天象

恒星界 心地良く澄み渡つた夜空には、銀河の流れが西に傾き、過ぎし夏の宵に、羽振りを利用させた星座も、中天から西方へと下つて來た。でも、未だ未だ琴だの、白鳥だの、鷲だのゝ姿は高い。たゞ射手だけが半分沈んで來た。中天のペカソス、アンドロメダ、カシオペアは、秋をロマンスに飾る星座である。東には引續いて、ベルセウス、羊、三角、牛、馭者と、晩秋を彩る星座の姿が、夜更けて漸く人目を引く。南にボツリと南魚のフォーマルホートが控へて居るが、是等の中に在つて、最も目を惹くのは實は東天にある巨大遊星「木星」の巨光だらう。

太陽 “乙女”座をズ！と横切つて、月末チョツビリ“天秤”座に踏み込む。

略表にすれば、

日付	赤經	赤緯	晝間	夜間	夕刻薄明終焉時刻
月 日	時 分 秒	時 分	時間 分	時間 分	時 分
10 1	12 27 10	2 56	11 50	12 10	19 4
6	12 45 19	4 52	11 40	12 20	18 59
11	13 3 33	6 47	11 29	12 31	18 52
16	13 22 9	8 39	11 18	12 42	18 45
21	13 40 54	10 28	11 7	12 53	18 40
26	13 59 54	12 14	10 57	13 3	18 34
31	14 19 13	13 54	10 47	13 13	18 29

すつかりいゝ氣候になつたが、日中は短かく、所謂秋の夜長になる。特に夕方の方の日の沈みが目立つて日一日と早くなり、月末では、18^h半頃にも早や星の觀測が出来る様になる。氣溫も夫れにつれて急降、早や、北滿や、内地でも高山には白雪がやつて來る。

月 “羊”座に始まり、一周以上して月末“牛”座に終る。

例に依つて表にすれば、

日付	月齢(21時)	時刻	視直径	星座	記事
6 ^日	23.0	14 ^時	31' 57 ^{分 秒}	双子	下弦
11	28.0	10	33 0	乙女	最近
13	0.6	5	32 36	乙女	新月
20	7.6	12	29 47	射手	上弦
23	10.6	8	29 31	水瓶	最遠
28	15.6	15	30 26	羊	満月

秋の月は美しい。夜露に小さく光る月影は、秋の虫すらこれを稱へて居るのだらう。

水星 夕空の星。次第に太陽から遠ざかりつつあるが、秋口の夕空では低く廻るから、見るのには都合悪い。

金星 夕空の星。そろそろ太陽から離れて来た。でも未だ觀望向ではない。

火星 漸く、今期の大接近も終りに近づいた。光度は -1.0 から -0.4 へ、視直径は $15''.2$ から $11''.6$ へと減少する。大體山羊座を順行中である。小望遠鏡には少し見難くなつたが、特志家にとつては、未だ觀望シーズン中にある。然し何と云つても今月位で詳細な觀測とは御別れである。

木星 先月末の對衝を過ぎて、丁度火星と代つて今が見頃の巨人、日没と共に悠々迫らず東天から昇る。光度は -2.5 から -2.4 、視直径は $46''.5$ から $44''.6$ へと減少するが、何と云つても良い見頃である。

土星 東天に、木星には少し後れて昇つて来る。22日には對衝となる。視直径は $17''.8$ から $17''.9$ 、光度は $+0.2$ から $+0.1$ 等級、美しい輪は 15° から 14° ほど傾いて居る。

天王星 “すばる”の西邊を逆行中。だんだん對衝に近づいて来た。

海王星 曉天の星、太陽に近くて見る事難い。

ユリウス日 10月1日21時が **2429538.0** に當る。(本誌218, 219號の誤植はウツカリして居ました。お詫びします)

日月食 10月12日皆既日食がある。然し中心は南極附近を通り、オーストラリア東部と南米南端で一寸部分食が見られるに過ぎない。

月食 28日には月食がある。0.992と云ふ殆んど皆既近いが、28日の12時から18時頃に起るから、是亦、日本からでは見られない。(木邊)